

8 月下旬における大豆の病害虫の発生状況は以下のとおりです。
巡回調査 (23 地点) は 8 月 17~23 日に実施。

○ ベと病

- ・今回の調査では、発生地点率は 69.6% で平年 (65.0%) 並、発病株率は 54.4% で平年 (49.3%) 並の状況でした(図1)。
- ・主要品種のミヤギシロメでは、全ての調査地点で発生が見られ、しかも過半数の調査地点では発病株率が 100% でした。

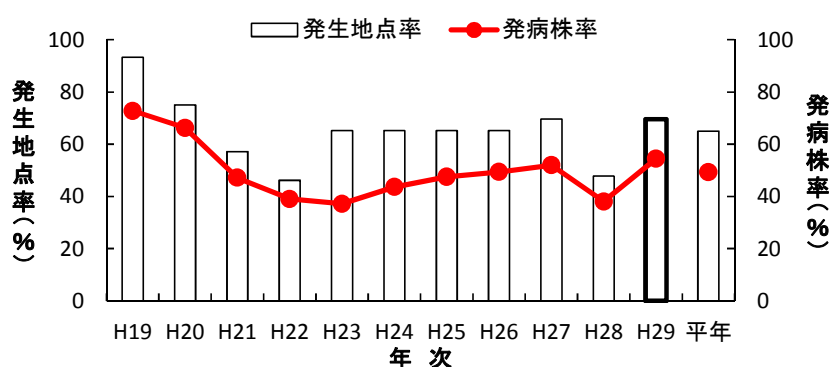


図1 ベと病の発生地点率及び発病株率の年次推移

調査株数:25 株 平年:過去 10 か年平均

○ 立枯性病害

- ・今回の調査では、1地点で発生が確認され、病徴から茎疫病による立ち枯れと推測されました。また、調査株以外で、黒根腐病の病徴が見られた地点が1地点ありました。

○ わい化病, ウイルス病 (わい化病を除く)

- ・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

○ ジャガイモヒゲナガアブラムシ・その他アブラムシ類

- ・今回の調査では、25 株(中位1小葉×2茎)当たり発生虫数は 2.8 頭で平年(8.3 頭)よりやや少なく、発生地点率は 21.7% で平年(30.2%) 並でした(図2)。
- ・その他アブラムシ類の発生は確認されませんでした。

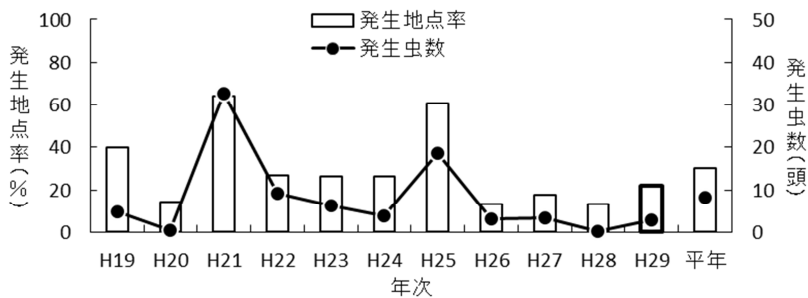


図2 ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生虫数及び発生地点率の年次推移(8月下旬)

調査株数:25 株 (中位 1 小葉×2 茎) 平年:過去 10 か年平均

○ 吸実性カメムシ

・今回の調査では、100 株当たり発生虫数は 0.2 頭で平年(0.1 頭)よりやや多く、発生地点率は 13.0% で平年(4.8%)より高く、主な加害種はホソヘリカメムシでした。

○ フタスジヒメハムシ

・今回の調査では、25 株当たり発生虫数は 0.3 頭で平年(1.0 頭)よりやや少なく、発生地点率は 4.3% で平年(10.5%)よりやや低い状況でした。

○ ウコンノメイガ

・今回の調査では、25 株当たり葉巻数は 25.6 個で過去9か年平均値(12.8 個)より多く、発生地点率は 52.2%で過去9か年平均値(50.8%)並でした(H20 より実施のため平年値なし)。

○ チョウ目食葉性害虫

・今回の調査では、69.6%の地点でチョウ目幼虫の発生が確認されました。主な加害種はウコンノメイガ、ツメクサガ、ミツモンキンウワバ、オオタバコガ、ヨモギエダシャクなどでした。

なお、オオタバコガの定点調査ほ(古川農業試験場)に設置しているフェロモントラップの誘殺数は、7 月下旬にピークがあったと推測されます(図3)。

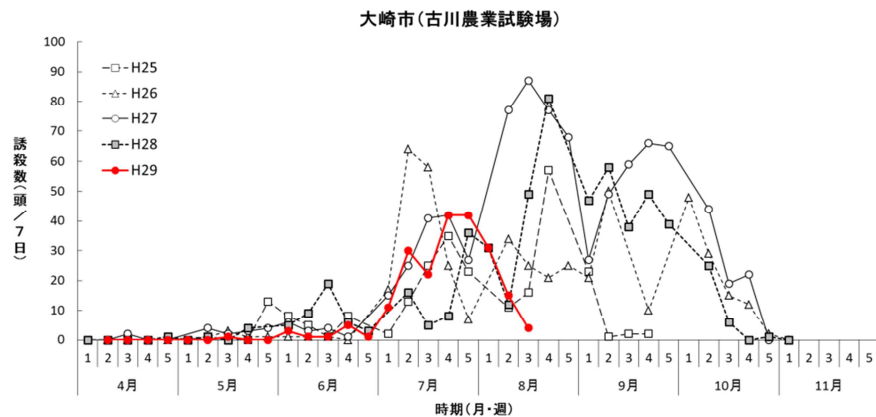


図3 オオタバコガ発生消長